

## 「第2回大阪城東部地区まちづくり検討会」 議事要旨

- 日時 令和2年2月7日（金） 午前10時から午前11時30分
- 場所 大阪市立大学文化交流センター（梅田サテライト内）（大阪駅前第2ビル6階）
- 出席者 別添の「出席者一覧」のとおり

### ■ 議事要旨

#### 1. 議題

##### ○事務局（大阪府住宅まちづくり部 藤本部長）

- ・ 大阪府・市では、2012年に大阪の将来像を描くランドデザインという計画を策定した。
- ・ 6つの象徴的なエリアを挙げており、この大阪城東部地区もその一つ。
- ・ 今回、新大学キャンパスが立地するというので、これを契機に、まちづくりが具体化に向けて進みだすと思う。6つのエリアで同じようなまちづくりをするのではなく、その立地特性に合わせた、当地区であれば、都心の真ん中ということや、大阪城のみどり、大学をキーワードに、まちづくりを進めていくのかと思う。
- ・ この地区の南側に旧成人病センター跡地がある。来年度から地上部の撤去をするための予算案を計上している。全部平地になれば、約2ヘクタールの土地が生まれるので、ここもにぎわいの創出や、多様な世代の居住のために活用できる場所だと考えている。
- ・ 一体としてのまちづくりを検討していただきたい。

##### ○事務局（山田部長）

- ・ 東西動線の整備について、大阪城公園駅からデッキを張るところに関しては、万博対応で、大阪メトロの車庫において輸送力増強の整備がされるので、デッキの工事は万博が終わってからになると思う。
- ・ そのため、1期の2025年の森之宮キャンパス開学の時は、1期の北側の東西動線の確保はできているが、その先の大阪城公園駅からの動線の確保はできていないと思う。
- ・ この動線は、万博が終わってから、メトロ用地において比較的早く使える用地があるので、その開発に合わせた整備になるのではないかと考えている。

##### ○西澤委員

- ・ イノベーション・コアという考え方は、我々にとっても非常に考えやすい。
- ・ 大学が先導役として展開する機能として「スマートシティ」があり、また、大学自身がやっている「都市シンクタンク機能」も明確に示されている。
- ・ 具体的なことは今後詰めていく必要はあるが、基本的な考え方は我々と合致している。
- ・ 私たちが基本構想で整理した考え方がここに映し出されていると思う。
- ・ インキュベーション機能については、杉本・中百舌鳥両キャンパスのフロントラインを持ち込むことも考えないといけないと思っており、大学として重要なポイントになると思っている。
- ・ 文化・芸術、国際交流に関しては、大学としても、今後、非常に重要な位置づけになっていく可能性があると思っている。
- ・ 他大学とのコンソーシアム機能なども含め、大阪全体の学術機能を集約できるような部分があっ

ても良い。

- ・ 若い人のまち、若い人の活力を学術・文化芸術など様々な面で活かせる場所にしたい。
- ・ 最も若い1・2回生が学ぶ基幹教育を意図的に都心の真ん中に配置している。
- ・ リハビリや生活科学（栄養、居住、福祉）を持ってくるのは、UR団地の状況も踏まえた上での計画であり、リハビリ研究科は、森之宮病院などとも既に連携を始めている。生活科学は、特に栄養の問題や住まいのデザイン等で、関係者と連携をしていきたい。
- ・ 留学生を今後もっと多くしたいと考えているが、大学の存在によって、留学生も含めて、若い人と高齢者とがコミュニケーションを深め、一体となった活力のあるまちをつくりたい。そういうことができ得るのではないかと思ひ、大学としては、そのつもりで取り組んでいる。
- ・ デッキ整備に関して希望を申し上げると、大阪城公園駅のホームから1期の大学エリアに向かって真っ直ぐ東方向に伸びるのがベストだと思っている。現在の大阪城公園駅は、コンサート等が開催される際、非常に混雑する。かなりの人数の学生が日常的に使うことを考えると、改札を二つにして分散した方が良いのではないかと思う。また、最短経路にできるので、景観的にどうなるかは先でないかわからないが、このような点を勘案し、直線のルートも考えられることを一応頭に入れていただければありがたい。

#### ○橋爪委員

- ・ 全般的にはこの方向性で良いかと思う。
- ・ デザインという概念がもう少し上位、あるいはそれぞれの柱となるところで、意識されるべきだと思う。
- ・ エリア全体のマスターアーキテクト的な役割の導入、あるいは全体をプロデュースするという発想も重要。そこにデザインの概念が必要であると思う。
- ・ 2025年の大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしている。デザインを掲げる博覧会というのはこれまでなかったものであり、特に若手のクリエイターやデザイナーを登用することを強調している。本件でも同様の発想があって良い。
- ・ ここでいうデザインとは「建物・空間デザイン」だけではなく、「コミュニティのデザイン」や「サイバーとフィジカルを融合するようなデザイン」など、色々な意味でのデザインがこれからの大阪では重要になる。是非デザインするという方法論を、上位概念に位置づけていただきたい。
- ・ ランドスケープ、特に緑化に関する考え方が現状では出てきていない。
- ・ 大阪城公園と隣接する地区でもあるため、緑のあり方を検討するべき事項の上位に入れていただければと思う。
- ・ 大阪府大では優秀なランドスケープデザインの専門家を輩出してきた伝統がある。エリア全体のランドスケープデザインにあたって学内の人材も関与することが必要である。
- ・ 東西の歩行者動線を魅力的なデッキにしていきたい。
- ・ 従来あるようなデッキではなく、世界でもっとも美しい歩行者デッキ、あるいは優れて注目される歩行者専用橋となるようにデザインしていきたい。
- ・ この間、世界中の再開発では歩行者デッキが、地域のアイコンになっている。例えば、ロンドンの「ミレニアムブリッジ」、スペイン・サラゴサにあるザハ・ハディオ設計の「ブリッジパビリオン（サラゴサ万博の際に作られた橋梁）」、マンハッタン・ハドソンヤードの「ハイライン」などがある。
- ・ ハイラインではデッキ上の緑化がうまくされており、パブリックアートが並んでいる。世界中の人がハイラインを見るためだけに、ハドソンヤードの再開発予定地を訪問している。また、デン

マーク・コペンハーゲンの「バイシクルスネーク」は、自転車専用の非常に美しい橋梁となっている。

- ・ 東西軸を歩行者専用とするのか、自転車等が通れるようなものにするのか、生活動線にもなるため、アイデアとして自転車も空中を走れるようなデッキがあればとも思う。
- ・ 鉄道が好きな方はデッキの上から写真が撮れるような名所になると思われる。JR、メトロにとって管理上難しいかもしれないが、デッキ中間ぐらいにカフェがあっても良いかなと思う。
- ・ 全般にデザインの概念をうまく入れながら、特に東西デッキは、魅力あるものにしていただきたい。
- ・ 参考事例11頁で紹介した「DOKK1」は、デンマーク・オーフスにできた最新のライブラリー図書館の事例である。資料に書かれている通り、従来型の図書館とは全く異なり、市役所の公共サービスの窓口のほか、子育て支援やコワーキングスペースなど、様々なコミュニティ機能を複合した、従来にない図書館となっている。
- ・ 「DOKK1」は、コンセプトを「マッシュアップライブラリー」と呼んでいる。マッシュアップというのは音楽のリミキシングの用語で、違う音楽二つを合わせながら新しい音楽を作っていくという意味である。従来の複合施設ではない。
- ・ 色々な機能を「マッシュアップ≒新しいものに変えていく」場であるとしている。リビングラボの新しい試みであり、コミュニティの課題をここで解決することもされている。
- ・ 資料内で言及されていないのが、「DOKK1」という新しいライブラリーがベイエリアの再開発のフラッグシップとなる拠点施設として構想され、なおかつ近傍に大学が新しい学部を作ろうとしている点にも注目したい。
- ・ 新しい大学を中心とした再開発エリアのトリガーとなる拠点施設として、従来とは全く違う発想の図書館が役割を担っている。世界各都市で従来にないライブラリーが都心に誕生している。そのような観点からDOKK1という事例を今回載せていただいているが、できればこのDOKK1を超える何か新しい中核施設をここにかたちにしたいと思う。
- ・ 現在の資料では、東西動線あるいは水辺の空間整備という機能面だけで書かれているので、ここにもデザインという概念を入れていただきたい。
- ・ 東西動線というと、本当に機能的な動線だけできるということなので、先々、魅力的な名付けが必要だと思う。
- ・ 南北動線についても都市計画道路の名称のままになっているが、愛称がないとなかなか盛り上がりがないと思う。一番単純な例でいえば「大学通り」のようなものだが、全般に、より魅力的なネーミングが必要である。
- ・ 水辺空間の整備に関して、マンハッタンの防潮堤の事例が参考になる。インゲルスというデンマークのデザイナーが設計、コミュニティと一緒に話し合いを重ねながら、世界から視察にくる例のないユニークな防潮堤ができつつある。本件の河川沿いも、同様の発想があって良い。当地区には大学があるので、ぜひコミュニティとともに、これまでに無かったようなデッキと水辺の遊歩道整備を実現していただければと思う。

## ○嘉名委員

- ・ 大きな方向性はあまり異論がない。
- ・ 現在、大阪においてイノベーションを進めている拠点として、中之島やうめきたなど、色々なところがあるが、大阪城東部地区は、「大学と連携して」というところが、恐らくイノベーション拠点としての大きな特徴になるのかなと思う。
- ・ イノベーションは誰が起こすのかというと、アントレプレナーが起こすことになる。もちろん大学が触媒になると思うが、色々な技術を持った技術者やクリエイターなどと一緒にイノベーシ

ョンが起きる環境をいかに作っていくかということが大事だと思う。

- ・ そういう意味では、当地区、あるいは周辺市街地も関係するかもしれないが、ここで起業していく人たちが次々出てくるようになり、それらの人たちが将来OBPやうめきた等にどんどんオフィスを作っていただく、使っていただくような展開が図れば良いかなというのが全体の印象である。
- ・ 広場をしっかり作る、公共空間をしっかり作るということが大事かなと思う。
- ・ 特に1期エリアでは、かなりのボリュームの建物が建ちそうであり、大学のフラグシップとなるエリアでもあるため、学生、あるいは近隣の人たちが将来に渡って集う空間として、印象的、象徴的な場所とするべき。そういう意味でしっかりした公共空間をつくっていくことが重要。
- ・ 公共空間の計画、広場の計画、あるいはそれと結びつく建物の1階部分・2階部分というところのしつらえをどうしていくか、また、それらは段階的にできていくので、それをどうデザインコントロール、デザインマネジメントしていくかということが非常に重要になってくると思う。
- ・ 恐らく1期は「もと建替計画用地」が中心になると思うが、将来、(都市計画道路)豊里矢田線を跨いで西側と繋がっていく関係性がある。また、北側には中浜下水処理場の上部利用、南側にはUR森之宮第2団地とも接合していくため、長期的にはペDESTリアンのフットパスが多くできてきて、それらは段階的に整備されていくことになるため、どのように段階整備していくかということを中心にしながら、どこにフットパスを置いていくべきかをあらかじめ想定しながらアーバンデザインしておく必要があると思う。
- ・ うめきたは1期2期であったが、当地区は恐らく3期4期と、さらに長期にわたり段階的に進んでいくことになる。そういう刷新型的の再開発ではない、段階型、URの言葉を借りれば連鎖型の開発をどのように進めていくのか、あるいはどの様に開発機運を高めていくのかが重要かと思う。
- ・ 最初に公共空間や広場ができ、そこでいわゆるタクティカルアーバンイズムと言われる手法で社会実験等を繰り返しながら、場所のポテンシャルを高めつつ、それを周辺のまちづくりに繋げていくというような方法論をしっかり考えないといけないかなと思う。
- ・ 色々な事業スキームというか方法論、例えば、都市再生整備計画や都市再生緊急整備地域、河川占用許可準則、最近法改正された道路協力団体制度等を使った公共空間の利活用や、さらには大学敷地の利活用などが、別れているのではなくて、有機的一体的に連携しながら面白い空間ができていくことが大事かなと思う。
- ・ 参考事例にもある柏の葉では、都市再生推進法人が4つもある。大阪はまだグランフロント大阪だけなので、こういう刷新形ではなくて、段階的に整備されていくようなまちにおける推進主体のあり方をここでは考えていく必要があるのかなという印象がある。
- ・ デッキのデザインも大事であるが、デッキとともに、大阪城公園駅から北側の第二寝屋川通沿いを通るフットパスが使われる可能性がある。
- ・ 大阪城公園の北側(当該地区の北西)では、大阪城公園周辺も含めて水辺の整備がかなり進んでいるので、それらと一体的に、できれば弁天橋の下をくぐれたら良いなということもある。
- ・ 例えば、東京の江東区では、芝浦工業大学が江東区と協定を結んで船着場の管理等を行っている。
- ・ 水辺の公共空間も実はイノベーションの場所になり得るため、これら水辺のフットパスもぜひしっかり考えていただきたいと思う。

## ○下條委員

- ・ 非常に素晴らしいアイデアが出てきたと思うが、特に今回提案のイノベーション・コアに関していうと、参考事例12頁に載っている「会津」の例が非常に上手くいっている。
- ・ 当初、自治体が主導し、それにアクセントが乗って、会津大学という情報単科大学があって、スマートシティをコアに様々な産業を興している。
- ・ アクセントが大きな基盤となり、周辺に色々なベンチャーが立ち上がりつつある。
- ・ 会津大学は情報単科大学なので、そのままスタートアップに就職したり、あるいは大きな企業に就職したりという流れができており、当地区のイノベーション・コアが回る仕掛けのサンプルとしては非常に良いサンプルではないかと思う。

- また、スタートアップの人を逆に大学に招き、大学のイノベーション教育に貢献してもらうなど、非常に良いモデルとなっている。
- 会津と森之宮を比べると、会津は小規模なので、住民もかなりまとまっており、色々なスマートシティの実験に付き合っているが、大阪は大規模なため、その辺がうまくいくかということはある。
- 会津大学は情報単科大学だが、新大学は総合大学なので、スマートシティの観点から言うと、これは非常にありがたい。
- 情報だけではなく、社会科学も含め、様々な課題解決、問題解決等が総合的に行われる可能性があるため、非常に楽しみである。また、スタートアップの幅も広がっていくだろうと思う。
- どう推進力を持っていくかが大切。会津の場合はアクセントが強力で引っ張ったのと、自治体のトップが落とされたというのがある。大阪は今スマートシティ戦略会議でトップは落とそうとしている。あとはうまく企業群がそれに乗ってくれて、一つの推進力になると、良いコミュニティができ、また、住民のうまいまとまりができると非常に面白いのではないかと思う。大阪ではもっと面白いことができるのではと非常に期待している。
- トヨタが「ウーブン・シティ」を提案しており、モビリティがこれから大きく変わろうとしている。
- そのなかでは、「車専用」「歩行者専用」「歩行者とスマートモビリティが交わる場所」という三つの道路区画をとり、デンマークのデザイナーを入れて、全体のまちづくりを行っている。
- やはり今からつくるのであれば、そのような新しいまちづくりをぜひめざしていただきたい。
- よって、東西動線や周辺動線が、比較的スマートモビリティに適している囲われた道路になるので、そういうところでスマートモビリティも入れながらまちをデザインしていくと恐らく未来のまちづくりができるのではないかと思う。ぜひ頑張ってください。
- コミュニティと一緒に歩むということは非常に重要である。
- スマートシティの作り方は多分3つぐらいあって、最悪なのがトップダウンで企業がいきなり来て、実証実験だけ行って帰っていくというパターン。これは日本に結構多い。
- ヨーロッパ型は割と住民合意というか、住民と話し合いながら一緒につくっていくというイメージが強く、やはり当地区もそれをめざすべきだろうと思う。
- その際に大学の存在は非常に重要であり、若い人もお年寄りも交えて一緒に話をしながら、でも彼らは技術を持っているので、まずどう使ったら良いかということを見つけていくことがすごく大事で、それはなかなか難しく、世界中で模索しているところである。
- その点を当地区で実現できると、世界に対して新しいモデルを示せるのではないかと期待している。そういう意味で大学もすごく重要だと思う。

#### ○岡井委員

- 全体の方向性に関しては、このままいくと最先端の良いものができるのかなと期待を持っている。
- 近年道路空間や広場の利用、公共施設や民間の施設であっても、そこに関係がない不特定多数の人に開放するというのが世界的に流行ってきているかと思う。ぜひこの大学という施設を大学に直接関係がない方に対しても気軽にアクセスできるような場になると良いのではないかと思う。
- かなり高度利用の建物ができると予測され、恐らく空地の部分も増えるかと思うが、それに防災公園的な機能を持たせていくというのも良いのではないかと考えている。
- 立命館大学のOICキャンパスは茨木市と連携し、市の防災公園と隣接して大学キャンパスをつくっているが、授業の中で「あそこは防災公園でこういうことができますよ」といった話を大学で学んだ学生たちは、有事の際にはボランティアに参加しようという意識が高いというアンケート結果なども出ているので、学生が地域貢献できることも兼ねられるのではないかと考えている。
- 地区全体としてデザインをしていくことが重要だと思う。
- 例えばフランスでは、20年ぐらい前から、この様な再開発を行う場合には必ずマスターアーキテクトがいて、ブロックごとにもサブのマスターアーキテクトがいて、その下に建築家が付き、デ

デザインをコントロールしていくことが必ず行われている。

- ・ 日本だと幕張ベイタウンが良い事例かと思うが、当地区においても各事業者が各々で進めるのではなく、全体的なデザインを統括するような方法を使っていくことが、長期に渡っての開発である点から考えても大変重要になってくるのではないかと思う。
- ・ ウォークアブルな地区になって欲しいと思う。
- ・ 大阪城公園へのアクセスは将来的には確保できると予測されるが、密集市街地との関係でいうと、地区として、例えばランニングができるなどの回遊性を持つような歩行空間にならないかなと思う。
- ・ 密集住宅市街地にお住まいの方も、快適に歩けるとかジョギングができるというような形で道路整備がなされると大変良い地区になるのではないかと思う。
- ・ 特に健康などをテーマにしているので、高齢者の方も散歩ができる。一日一周お散歩することで、健康増進に繋がるなどは、可能性として考えられるのではないかと思う。
- ・ イノベーション・コアゾーンには大学以外に、業務系の機能、商業系の機能などが恐らく中心となってくるかと思うが、そこにも住宅・住まいというような機能も付加していただければと思う。
- ・ 大学との関係でいえば、海外からの研究者が来るということを見ると、海外の研究者がここに来れば必ず泊まれるというような施設を（大学とどちらの方に作るのかはあるが）作ることで、日本に来て様々な国の研究者とここで交流ができるというような空間になると、それはすごく研究者にとって魅力的な空間になるのかと思う。

#### ○JR 西日本 畑中部長（杉岡委員の代理）

- ・ 先ほどからデッキ通路の重要性の話が出ているが、資料7頁に記載された位置であれば、車両基地や駅接続などを考えた時に、デッキを設置できる可能性は高いと思う。
- ・ 検討はスピード感を持って行う必要があるが、長期的な視点で、最終的な動線のイメージを共有しつつ、細部を詰めていく必要がある。ぜひ一緒に検討して進めたいのでよろしくお願いしたい。

#### ○土肥委員

- ・ 当社としては、全体の40haもそうだが、イノベーション・コアゾーンと位置付けられている、トリガーとなるエリアの開発についても協力させていただきたいと考えている。
- ・ 前回も話したように、万博対応で留置線の増設等々がマストになっていく中、今後急ピッチで検車場11.5haにおいて、色々な工事が当社の方で始まっていくという段階である。
- ・ 結果として2025年までは、なかなか触れることはできない形になっている。
- ・ 2025年以降、1.5期として説明があったように、府市をはじめ、本件関係者の方々と具体的に協議をしていきながら検討を進めさせていただきたいと考えている。
- ・ スマートモビリティの話も出ていたが、当社は交通事業者として、今年から自動運転バスの実証実験を開始した。このような次世代モビリティをこのまちに活用するという事で交通事業者としての役割を果たさせていただきたいと考えている。

#### ○新居田委員

- ・ 資料7頁の基盤整備計画について、防災や安全性向上の概念が出てきたのは非常に良いと思う。
- ・ 当地区は、ハザードマップでは、寝屋川や平野川水系があふれた際には、一定程度浸かるような場所になっており、UR団地も避難ビルとして指定を受けている。
- ・ 密集市街地が川の向こうにあり、上町断層も近いことから、地震が起きた際には、空き家等の老朽建物見られるため、一定程度被害が出る地区だと認識している。
- ・ 大阪市の方で少しずつ道路拡幅をされて、建物の機能更新等が始まっているかと思うが、この森之宮地区が変わることで、例えば学生向けの貸家需要も増え、ポテンシャルも一定程度アップできるので、それに伴い密集市街地も安全なまちに変わっていけば良いと思う。

- ・ 広域避難場所である大阪城公園との歩行者ルートを複数整備するという提案があるが、平成 28 年の計画（「大阪城東部地区のまちづくりの方向性（素案）」）では、もう少し大胆にデッキの計画があったと思う。今回提案では、鉄道事業者に配慮したからかもしれないが、割と現実的な絵になっている。
- ・ 南側の通り抜け通路の確保に関しては、今でも通り抜けはできている。
- ・ 継続検討エリアということなので、もちろん 10 年 20 年以上かかるかもしれないが、開発する際には真ん中にもう 1 本東西動線が絶対に必要だと思う。このイメージ図には点線でも良いので、もう 1 本東西動線が欲しいと思う。
- ・ 先日「人生 100 年時代におけるまちとすまい」というフォーラムを UR と新聞社共催で行ったのだが、そのなかで 1 人の先生から「スマートシティは良いが、センサーと AI に守られて、倒れたらすぐに救急車が来てくれるようなまちなのに、周りの人は知らんぷりといったまちには住みたくないよね」という話をされ、コミュニティデザインの大切さについて教えていただいた。
- ・ コンセプトでも二つ目がスマートシティ、三つ目が交流ということでそれは良いと思うが、誰もが 100 年生きる時代になって、UR 森之宮団地は高齢化が進む先進的な地区だが、この方たちが住み続けられるのはもちろん、生き生きと活躍できるようなまちにしていきたいと思っている。
- ・ 森之宮病院では訪問看護ステーションをつくられているし、ここにあるハザマ薬局は、薬を渡した後のフォローを各戸訪問でされて、服薬指導や健康の確認、副作用の確認などを行う特徴的な薬局にも入っていただいている。そのようにフェイストゥフェイスで、機械に頼らず、コミュニティを大事にしていきたいと考えている。
- ・ 大学へのお願いとして、団地における先進的なスマートエイジングシティの実証実験はもちろん行っていただきたいが、せっかくリハビリテーション学科や、生活学科などが来てくれるので、教育の場や、団地の方との交流ということであれば、場所は UR の方でいくだけでも用意するので、例えば、高齢者を集めて、体操教室を行ってもらおうとか、栄養の学科などもあると思うので、食事の指導や料理教室などで一緒に料理を作っていただくのも良いかと思う。
- ・ 大阪のおばちゃんは、はっきり物を言ってくれるので、コミュニケーション能力をつける場としても活用できて、おばちゃんたちも大変喜んでくれると思う。
- ・ 大学が開かれているのはもちろんだが、まちの中に出ていって活動していただければ、我々も非常に嬉しいと思う。
- ・ 資料 3 頁にある概念図の右下に「居住・健康医療系機能」とあり、例として「多世代交流機能（学生寮＋サロン）」という記載があるが、団地の皆さんと交流していただくためには、学生寮のようなまとまった形ではなく、バラバラというか、団地の中に溶け込んで欲しいと思う。
- ・ 留学生を含め学生の受け入れは歓迎するが、学生寮という表現は少し違うのではないかなと思う。
- ・ また、サロン等について、コミュニティの拠点をイメージした導入機能であれば、団地の中に用意していきたいと思う。
- ・ 連鎖型の件について、先程、大阪府の方から成人病センター跡地について、多様な世代の居住機能という話をいただいたので、検討していきたいと思う。

### ○荒川学長（大阪市立大学）

- ・ 総論として、変化の激しい時代に対応して成長するのが見えるような、固定して動かないまちではなくて成長に伴って動いていくようなまち、例えば、木が苗から育っていくような、そういうイメージの新しいコンセプトのまちにしていってもらいたい。
- ・ 各論としては、学生と住民の交流が非常に大きなテーマだと思う。
- ・ 例えば、大阪市立大学では留学生等の住居の確保に大変困っている。そこで、府住宅供給公社と連携協定を締結し、本学から徒歩圏内の公社住宅「OPH 杉本町」団地の一部をシェアルーム（1 室 3 人居住可能）として留学生等が住めるようにした。10 月から外国人留学生 2 人と日本人 1 人がシ

- ェアして入居しており、高齢者の方々と一緒に食事をしたり買い物のお手伝いをしたりするなど、試験的に共生・交流の場づくりを行っているが、大きなトラブルも無く非常に上手くいっている。
- 同様の取組みを森之宮UR団地でも拡大した形で行っていただければWin-Winの関係になるのではないかと思う。若者と高齢者の交流についても、クロスオーバーシティの一つの核になると思う。それもコンセプトに入れていただければと思う。
  - また、WHOの定義では、ウェルネスの概念には身体と心だけでなく、社会的にも健康で安心な状態であるといっている。
  - 大阪市立大学医学部附属病院では、1年くらい前から組織を立ち上げて、AIを活用したスマートホスピタルの検討を進めているが、AIを導入することにより医療者が患者に対して十分な時間を取れるようにする（パソコンばかり見て患者を診ないことにならないような）考え方である。診断は、AIでかなりできるようになってきているので、AI活用によって医療者に時間を作って、人としての役割をより強く発揮してもらおう。病院は、スマートシティの根幹になるもので、個々の単位となる家がスマートハウス化していかないといけない。住居内での生活を非接触型のセンサーでモニターし、医療や生活の質向上に活かすことなどを考えていくのだが、ある住宅会社と4月から共同研究を始めることになっている。
  - こうしたものが結びついて、ウェルネスの観点でもスマートシティに発展していけば、森之宮も活性化すると思う。アカデミア（大学）の果たしていく役割はそういうところかなと思う。
  - さらに、本学では、人工光合成の研究が相当進んでいるが、そのような技術で森之宮を環境に優しいエネルギーのエコシステムのまちとして全面的に打ち出していくことも考える必要がある。
  - 万博との繋がりでは、「Honaikude」という大阪的な名前の学生サークルが府大と市大と合わせて40人ぐらい集まって活動しており、いくつかテーマがあるなかで、宇宙をテーマに、「宇宙で暮らせる住宅とはどんなものか」について検討してくれている。それができれば、地球に優しい持続可能な住宅になる。
  - このように、イノベーション・コアにおける万博後のコンテンツ等の継承という機能の中には、スマートハウスやスマートホスピタル、宇宙の居住環境などの要素も取り入れていけると思う。

### ○辰巳砂学長（大阪府立大学）

- コンセプトは「大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ」となり、「成長する」という言葉がついて非常に良くなったと思う。
- 一番気になるのはデッキ整備。私達の最大のお客さんは学生なので、入学してくる学生が、今は寂しい状況で、ちゃんとしたものはないけれど、2025年以降はハドソンヤードのようなものができていくということが見えてると、仮に、その人たちには使えなくても、魅力的かと思う。大学としては将来の魅力ある地域のイメージを具体的に示せるものの一つがデッキであり、そういうものは必要であると思っている。
- 新大学が開学するのが2022年で、2025年にこの新しいメインキャンパスができ多くの学生が入学してくる。2022年に入学してくる学生にとっても「日本を代表するキャンパスができるよね」「周りと一体となったスマートシティの核になる大学ができるよね」というのが見えているようにしていただきたい。
- UR団地の皆さんと、留学生や学生とがどのようにかかわっていくかは段階的に変わっていくべきものなので、最初に申し上げた「成長する」という言葉は重要。その際、大学の存在感が出せれば良いと思っているのでぜひよろしくお願いしたい。

### ○松本区長（城東区）

- ・ 大変夢のある魅力的なまちづくりの話であり、ありがたいと思う。
- ・ 多世代居住複合ゾーンについて、多様な世代が交流をするという話があったが、コミュニティの形成も視野に入れたような、魅力的な住環境整備をぜひともお願いしたい。
- ・ 東側の密集住宅市街地についての提案は非常にありがたい話しかと思った。
- ・ 中浜地域といわれているエリアであるが、先程、地震による倒壊の危険性の話があったが、それ以上に心配なのが大規模火災である。そのような懸念があるなか、大阪城公園方面への避難経路についての話しもあり、是非とも実現をお願いしたいと思う。

### ○田中会長

- ・ 大阪城東部地区は「大学のあるまち」という、他にはないユニークな特色を持っているため、それを活かしたまちづくりをしていきたい。大事なのは40haの地区内だけで完結するまちづくりではなく、周辺との相乗効果、特に大阪城公園の緑や、今後開発が期待される京橋付近との連携等、周辺の力をどう呼び込むか。
- ・ 一方で、密集市街地の解消に貢献するといった、周辺に対して貢献する要素も含めて考えていきたい。
- ・ 今回の資料は、都心部全体と東部地区40haの図はあるが、その中間の周辺を入れた図が無い。当面は答えのない真っ白なものでも良いので、周辺との関係をどうするかを意識できる資料をお願いしたい。
- ・ 特に、資料7頁に車両アクセス等が記載されているが、間違いなく周辺との関係を抜きには検討できない課題。
- ・ スマートシティにも色々なテーマがあると思うが、モビリティのように、まちづくりと密接に関連する、あるいは一定の設備投資を必要とする場合に、その先行リスクを誰が負担するのかに関して、ルールや約束事がなければ、先行する人がなかなかいないといったジレンマに陥りがちなテーマもあると思うので、その辺の課題整理も必要と思う。
- ・ 次回、今日頂いたご意見を踏まえて一定の整理をしたいと思うが、今年度はここまでまとめて来年度はこれが残っているというような、来年度に向けての課題整理をしていただきたい。
- ・ 今年度まとめながらも、来年度に向けての準備をするような感じで、事務局の方をお願いしたい。

### ○事務局（大阪市都市計画局 角田局長）

- ・ 本日、デザインの記載の話や、ネーミングの話のほか、特にデッキなどの動線の話でご意見賜った。今後、検討・研究させていただき、反映可能なものを次回反映させたいと思っている。
- ・ 会長から指摘もあったが、今年度の取りまとめのほか、来年度以降、継続的にやっていくことでもあるので、課題の抽出や次のステップに向けての点も少し記載を考えたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

## 2. 閉会

### ○事務局

- ・ 次回の日程については3月23日を予定。改めて詳細の日時等についてご連絡をさせていただく。

以上